



2019年4月

認定 NPO 法人 みんなでお城をつくる会

東博模型の調査が始まりました 2019年1月29日



神奈川県立歴史博物館において「東博模型」の簡易的な調査を行いました。当会からは4名、小田原城天守閣館長の諏訪間氏と工学院大学の後藤先生にもご参加いただきました。今回は、模型の軸部構造などについての事前的な調査で、ライトの照射と写真撮影の許可を得て、模型図面を参照しながら全体構成を観察しました。

調査の結果、外観や内部構成に関する知見も得ましたが、特に軸部構造については東側の土台や桁などに残る痕跡から、現在の天守に見られる東側（本丸広場側）の「張り出し」が、「東博模型」でも検討された可能性のあることがわかりました。今後も引き続き、模型所蔵先の博物館などと密接に連携をとりながら、現存3基の模型調査を継続し、意匠と構造の両方に関する考察を深めていきたいと思っております。

記念講演会とパネルディスカッション 2019年2月11日

伝統木構造の会会長 海老崎条次棟梁（錦帯橋技術継承者）には錦帯橋の構法や他の木造橋の話などを伺い、伝統木構法の大きな可能性がまだまだあることを感じました。

パネルディスカッションでは、歴史的建造物の保存・修復を手がける横浜国立大学都市科学部・大野敏先生、元金沢工業大学未来デザイン研究所所長 Azby Brown 先生、富山県高岡にある国重要文化財・勝興寺の大修復を手がけた田中健太郎棟梁、そして海老崎棟梁も加わり、工学院大学理事長後藤治先生司会進行のもとパネルディスカッションが進められました。

大野先生は大工の技術のすばらしさと城郭建築の構法は民家への応用もあることを知ったと述べ、Azby 先生は薬師寺西塔を建立する時の西岡常一棟梁に会い、そこで1300年前の木材に直接触ることが出来た。それが1000年経った木だと知った時、2000年以上も繋がっていることに感動したと仰っています。田中健太郎棟梁は、文化財級の木造建築はその仕事を手がけたことのある職人が、そのものの道理を分り、職人としてきちんと自分の意見を言えるようにならなければいけないと述べていました。

（詳しくは HP に当日のシンポジウムの DVD を UP します）



◆小田原城天守調査研究室の構成◆

研究室室長 高橋 政則(高橋建築工房代表 一級建築士) 研究員 宮本 啓(一級建築士事務所 忘羊舎)

◇顧問(順不同・敬称略)


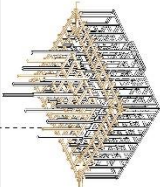




田代 道彌 (小田原の城と緑を考える会会長)・後藤 治(工学院大学総合研究所教授)・黒津 高行(日本工業大学工学部教授)・伊藤 龍一(熊本大学工学部教授)・海老崎 条次(伝統木構造の会会長 錦帯橋架替大工棟梁)・田中 健太郎(重文勝興寺保存修理工事大工棟梁)・アズビー・ブラウン(前金沢工業大学未来デザイン研究所所長)・白根 伸浩(白根工務店棟梁)

◇アドバイザー(敬称略)

小笠原 徳明(OGA 建築スタジオ一級建築士事務所)

5年間の研究で基本計画を描き上げる

昨年11月に発足した小田原城天守調査研究室ですが、2023年に設計案を含む基本計画書を提出することを目標としています。研究概要を大きく「研究」「調査」「実践」の領域に分け、既にある研究のまとめや天守の内部構成などの考察と文献史資料などのデータ化・目録化、現存3基の模型と「小田原城三重天守引図」の詳細な調査・図面化、新たな検証模型の制作と基本設計図書の作成をそれぞれの軸として活動していきます。

小田原城天守調査研究室 研究計画概要		2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)
年次 概要							
研究			既にある研究のまとめ／天守の内部・外観の考察				
			文献史資料のデータ化・目録化				
調査			模型3基の再調査				
			「小田原城三重天守引図」の調査				
実践			検証模型の制作①(基本構造)		検証模型の制作②	最終模型の制作(軸組・外観全体を表現)	
備考		2018年次報告書 ●	2019年次報告書 ●	2020年次報告書 ●	2021年次報告書 ●	2022年次報告書 ●	最終報告書 ●
		● 9月 日本建築学会発表	● 9月 日本建築学会発表	● 9月 日本建築学会発表	● 9月 日本建築学会発表	● 9月 日本建築学会発表	● 9月 日本建築学会発表
							基本計画書・設計図書の作成